



NSW 州道路局とのワークショップ

NPO 法人 SLIM Japan 理事長 有岡 正樹

これまで9回に分けて連載してきた経緯からも分かるように、今回5日間のシドニー視察旅行もいよいよ最終日である。その日の夜行便で帰国するというあわただしいスケジュールで、今回の中でも重要視していた NSW 州道路海事庁（Roads and Maritime Services : RMS）とのワークショップが、シドニー西部パラマツ中核都市パラマツの州政府付属施設で開催された。

1. ワークショップの概要

日本側からは訪豪者8名、オーストラリア側は3名の日本人 駐在員含め10名の、計19名で右表に示すスケジュールでの5時間のワークショップである。

話題提供テーマ（右表黒太字）としては、オーストラリア側からは、RMS の Colin Langford 部長による「州の自動車道と橋梁のアセットマネジメント」および国際コンサルタント KPMG 取締役の Ruth Lawrence 女史の「ソーシャルキャピタル（社会関係資本）

と社会的インパクト」と題しての2つの講演と、日本側からは筆者が「インフラメンテナンス国民会議活動」、皆川勝東京都市大教授（現副学長）が「インフラマネジメントにおける市民組織の関与」という2課題を分担して、日本のインフラメンテの現況を報告した。

ワークショップというと4,5人で小机を囲み、ポストイットを用いてとなるが、言語の問題もあり講演後は1,2の質問のみとして、表の赤字で示すように、我々による日本の地方自治体や市民組織による活動紹介のあとは立食のサンドイッチを片手に、Ruth の講演の後はアフタヌーンティーを楽しみながら、それぞれセミナー室と隣り合う部屋で、45分ほど時間をかけて意見交換を行うように手配してくれた。途切れることなく5時間を有効に使っての、オーギー流の合理性を垣間見ることができたのではと思っている。

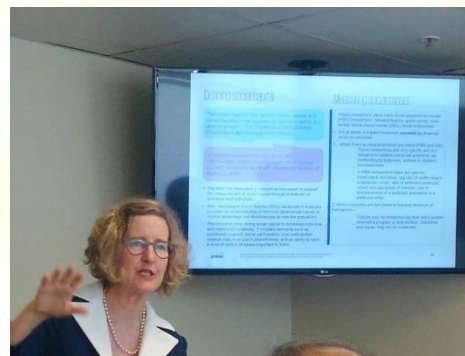
2. オーストラリアにおけるソーシャルキャピタルとソーシャルインパクト

オーストラリア側の2つの話題の内、最初の Colin Langford 氏の州道路のアセットマネジメントについては、これまでのシリーズの関係で前回（9）で皆川先生が寄稿されているので、筆者については後者の Dr. Ruth Lawrence（次ページ右上写真）のとくにソーシャルインパクトボンド（SIB）に関連して触れておきたい。CNCP では2016年より NPO ファイナンス研究会において、とくに社会的起業に対する新しい資金調達の仕組みとして注目され出している SIB について勉強し、CNCP の NPO 法人会員が関係している事業に適用できないかの検討を始めていた。

AGENDA

NO	ITEM	TIME	PRESENTER
1	Introduction to Translator	9.10 – 9.15	Professor John Black
2	Introduction to Urban Research and Planning / SLIM / Participant	9.15 – 9.45	Dr Kam Tara Dr Masaki Arioka
3	State highway and bridges asset management	9.45 – 10.40	Colin Langford, NSW Roads and Maritime Services
4	Collaboration between local government and community in Japan for: 1. Japan Congress Infrastructure Management 2. Local Community Involvement for Infrastructure Management	10.40 – 11.35	Dr Masaki Arioka of CNCP Dr Masaru Minagawa of Tokyo City University
5	Lunch	11.35 – 12.10	Sponsored by URaP
6	Social Capital and Social Impact	12.10 – 13.05	Dr Ruth Lawrence
7	Afternoon tea and discussion on stakeholder and community consultation	13.05 – 13.50	Facilitator – Professor John Black
8	Seminar closure	13.50 – 14.00	Dr Kam Tara, URaP Dr Masaki Arioka

一方、2017年3月横浜で開催された「ソーシャルインパクト・フォーラム 横浜 2017」に参加して、KPMG オーストラリア重役のLth Lawrence 女史の‘Trends, Performance and Challenges of SIB in Australi’ という講演を聞いたが、それが終わって休憩時間に彼女に話し掛け、“いま CNCP では NPO 事業に SIB が適用できないか研究しているので、また機会があればぜひ意見交換を願いたい”と自己紹介しておいたのが始まりである。



そしてその機会は意外と早くやってきて、このシリーズで書いている視察旅行で11月に訪豪し、インフラメンテをテーマにセミナーを行うので、その機会にぜひ講演をお願いしたいとメールで持ち掛けていた。同年6月末に彼女が再度国際会議で来日した際に具体的な打ち合わせをして、上述した今回のテーマで講演を依頼していたのである。

このテーマはいわゆる土木屋にとっては耳慣れない用語ではある。ただ、NPOファイナンス研究会での検討や、最近ではインフラメンテ国民会議に関連してソーシャルインパクト評価の適用などもあって、認識を共有できる概念ではあるが、当初は私も含めて、日本で外国でのことを学んでも馬の耳に念仏といったところであった。せっかく知り合った世界でのその道のプロである Dr Ruth Lawrence との縁もあってよい機会であるので話を聞いてみようとなった訳である。紙面の関係でその内容について触れることはできないが、話の流れは以下の通りである。

1. インパクト投資の定義
2. マーケットの状況
3. 取引のタイプ
4. オーストラリアでの市場
5. ソーシャルインパクトボンド (SIB)
6. 事業化調査 (FS)
7. ソーシャルキャピタル (社会関係資本)

このうち SIB については、本 CNCP 通信の「NPOファイナンスシリーズ」で何回か触れている。また、ソーシャルキャピタルについては本通信 Vol.18 (平成 17 年 10 月号)「用語としての『ソーシャル・キャピタル』の偶然」で書いている。参照願いたい。



3. そしてその後

今回のワークショップのコーディネーターであった Dr John Black も SIB の話を具体的に聞くのは初めてということで、そのあとの意見交換会で彼女を捕まえて結構長く話をしていたが、SLIM として何か具体的な検討をしているのであれば彼女と意見交換してみたいとの事であった。早速 CNCP の NPO ファイナンス研究会で議論している、電線の地中化、バイオマス発電、さらには津波がれき処理 (Green Hill) 事業などの PPT スライドを送ってそれについて説明した。

彼は後日彼女に会って、当方が提案したテーマは“今いきなり言われても”とのことだったが、例えばということで、高齢化社会の日本の‘高齢者運転と交通事故’に対し、運転免許の返上とそれに対するサービスの提供といったスキームとしてあり得るという点で合意したようだ。オーストラリアでも関心のあるテーマで、キャンベラ政府やシドニー大学でも調査が行われており、共同研究もあり得るということだ。‘瓢箪から駒’とはいくまいが、これからもこうした繋がりは保ちたい。